

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 6月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	4092900010
法人名	アースサポート有限会社
事業所名	グループホーム めぐみ苑
所在地 (電話番号)	福岡県小郡市大崎738-1 (電話)0942-23-8838
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年4月2日

【情報提供票より】(平成 19年 2月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(100,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000円	

(4) 利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.2 歳	最低	69 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菊池整形外科医院・丸山病院・花田歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地にありながら自然豊かな環境に包まれた開設1年目のグループホームである。ゆったりと使いやすく造られた新築二階建てのホームで「明日はわが身・感謝と思いやりを大切に」というわかりやすい理念を基に利用者、職員とも自然体で共同生活を営んでいる。利用者一人ひとりが持つ力を自主的に発揮し、笑顔と活気に満ちている。施設代表者の高齢者福祉に注がれる深い愛情と包容力が、利用者のおおらかで穏やかな表情に反映されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回は1回目評価のため該当なし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム開設一年目で初めての自己評価である。全職員は自己評価の意義や目的を理解しており、日々のサービスを振り返りながら自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の意義や目的をしっかりと踏まえており、二ヶ月毎にこれを開催し、事業所の活動状況や現状報告を行なっている。出席者から得た助言や地域の情報を採り入れながらサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	苦情相談等を気軽に受け取るように取り組みを行っているが、現段階では苦情・相談窓口としての利用はない。良くしてもらっているからこそ遠慮される家族の心情をおしはかり、その一助として「ご意見・ご要望箱」の設置を検討されてはいかがでしょうか。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム建設をめぐって、地域住民と何度も話し合いの場を持ち開設されたホームである。地域の行事に利用者と一緒に参加したり、近隣住民から季節の農作物を頂いたり友好関係にあるが、さらに一歩すすめてグループホームの存在意義や認知症について、地域住民の一員としてホーム側から地域に働きかけていかれるような取り組みを期待したい。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明日はわが身。尊敬と感謝。思いやりの気持ちを大切に」というわかりやすい理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に入居者の立場に立って、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(七夕)への参加や地元のお寺の住職にホームでお茶会をしていただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義の理解は勿論であり具体的な取り組みは評価に関わらず日々取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。その中で意見が出た場合は実行するよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターには運営推進会議にも参加していただいているがその他にも常に連携をとり相談をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度については研修に参加し学んでいる。また、入居時に説明を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用請求書とともに、写真、金銭出納簿の領収証のコピーを送付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等相談窓口担当者及び電話番号等を重要事項説明書に明記している。また、家族の面会時や個別に電話でも対応している。	○	苦情相談を気軽にいただけるよう取り組んでいるが、家族にとっては直接は言いづらいものである。苦情相談箱を設けたり、家族会でじっくり話し合う等の更なる工夫を期待する。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全員正社員で雇用、働きやすい環境を作り離職を必要最小限に抑える努力をしている。また、職員が退職した場合は入居者への不安を防ぐため知らせていない。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員はたまたま女性だけであるが、男性の職員を排除したわけではない。職員は20歳代～40歳代で、生き生きと勤務しており、社会参加や休暇等も保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者は人生の大先輩であり「明日はわが身」であることを念頭に、入居者に接するときの言葉の大切さを常に指導している。	○	契約書に利用者の権利を明記されると本人及び家族はより安心されるのではないだろうか。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他のグループホームと合同で研修を行なっている。また、外部の研修にも積極的に参加し、他の職員にも伝達している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームでの演芸会に入居者とともに訪問するなど互いに交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時に認知症について家族に説明し、協力を得て、環境に馴染んでいただけるように、入居者の状況に応じて対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の買い物、庭の草取り、食事の準備、後片付け、レクリエーション等々、入居者1人ひとりの得意なこと、できることを職員と一緒にやっている。調査訪問時は職員の声かけで入居者が役割を分担して昼食を自然体で作成し、ホールはにぎやかであった。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人ひとりの思いや希望、意向を把握しながら、また、意思表示が困難な方には、家族や関係者から情報を得るとともに、日々の行動や表情から推察し、入居者の意向に添った暮らしを支援するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員で検討し介護計画を作成、家族に説明して確認印をいただいている。	○	本人、家族の希望や意向を聞いたうえで全職員で十分検討し、具体的な介護計画の作成に取り組んでいただきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直しをしている。また、状態に変化がある場合はその都度見直しを行なっている。	○	日々の介護記録は詳細に記録されているが、介護計画については評価・見直しの記載がなされていない。介護計画は情報収集→介護計画の作成→サービスの実施→評価→見直しというサイクルで行なわれる。記録もこのことに沿って記載し、家族に説明すると安心されるのではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や好みの理美容院への送迎、入院時は頻繁に見舞いに行き洗濯物を持ち帰る等柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回訪問診療に来てもらっている。さらに複数の協力医療機関が確保されており、日常的な健康管理に取り組んでいる。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでは該当はないが、ホームとしては家族の同意を得て取り組む意向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格の尊重と礼節意識を念頭に、さりげない言葉かけや誘導を行い、誇りやプライバシーを守る対応の徹底に取り組んでいる。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりの生活リズムに配慮しながら、起床、入浴、食事時間等についても急がせたりせずその人の状態や思いを受け止め、見守りながらその人のペースに沿って支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは入居者と相談して決めている。食材の購入、調理、盛り付け、片付けまで入居者が自主的に行なえるよう職員がさりげなく声をかけている。入居者と職員と一緒に作ったものを同じテーブルを囲んで楽しく食事している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者1人ひとりの希望に合わせた支援を行っている。入浴を拒む方に対しては足浴から勧め、入浴したい気持ちになるように等、その時々状況に応じて対応している。浴室のガラス窓の外側には専用の庭園を設け、より入浴が楽しめるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食材の買い物、食事作り、カレンダーめくり、共用空間のカーテンの開閉、庭の除草、花木の水やり等、入居者1人ひとりの趣味、特技、希望、できること等を把握し入居者の安心と自信につながるよう、日々の暮らしを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の移り変わりを肌で感じられるよう散歩、買い物、ドライブ、テラスでの食事等、その日の天候や入居者の希望に応じて戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が外出しそうな様子を察知しても制止することではなく、さりげなく声をかけ一緒について行く等安全面に配慮している。入居者に不穏状態が続いた場合はやむを得ず鍵をかける場合がある。このことについては家族に説明し同意を得ている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	他グループホームの避難訓練に参加している。ホームでは緊急災害時のマニュアルを作成し4月20日に消防署の協力を得て避難訓練を予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みを把握し、栄養士によるバランスのよい献立になっている。入居者1人ひとりの食事、水分摂取量を毎食記録し全職員が共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の日差しでホーム内は明るく、加湿器を使用している。共用空間には食事前テーブルセットとすわり心地の良いソファがゆったりと配置してある。廊下、浴室、トイレは車いすが楽に移動できるように配慮がなされている。また、要所には手すりが設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室はくつろげるよう畳敷きになっており、段差もなくしている。使い慣れた布団、家具、時計等馴染みの物品を配置し安心して過ごせる場所となるよう支援している。</p>		